

# 王垠：生命、宇宙以及一切的终极答案

微博 @ 不再关心人类 de 垠 より転載 (人類に関心を持たなくなった垠による)

---

もしかすると、この生涯で虚偽と戦うことが私の運命だったのかもしれません。幼い頃から、両親は私に、世の中には賢い人がたくさんいて、能力があれば良い生活が送れると教えてくれました。だから、私は一生懸命勉強しなければなりませんでした。私はそれを信じ、常に優秀な学生でした。しかし…

(ここで長い説明は省略します—私の以前の記事『清華夢の崩壊』をご参照ください。)

メンターの Dan Friedman と出会い、ようやく自分は批判的に考える力を身につけたと思いました。この力は子供の頃には持っていたものの、その後の「教育」によって失われたものでした。IUでの順調な経験は、自分には解けない問題はないと思わせるものでした。純粋に、この本物の力があれば、満足のいく仕事と生活が自然と手に入ると思っていました。しかし、またもや私は間違っていました。

Google に入社して初めて、職場では最も強い能力を持つ者が最高のポジションを得るわけではないと気づきました。むしろ、口が達者で他人の才能を巧みに利用する者がトップに上り詰めるのです。ある意味では、それは「Google の夢の崩壊」でしたが、そもそも私には「Google の夢」などありませんでした。Google はよく「私たちはあなたの学位を気にしません。能力があれば良い仕事に就けます」と主張していましたが、今ではそれが嘘だったとわかっています。

その後、サンフランシスコで Python の作者である Guido van Rossum に会いました。その時、彼はすでに Google を辞めています。彼は私にこう言いました。「世の中はまだ学歴を重視している。私も修士号しか持っていないので、企業社会では不利だ。」 Guido van Rossum でさえそんなことを言うのかと驚きましたが、それは事実でした。今では、「学歴は気にしない」と宣伝していた企業（Google を含む）が、最終的には学歴で人を抑えつけていたことがわかっています。

しかし、博士号を持っていてもすべてが解決するわけではありません。少しは楽になるかもしれません、それほどでもありません。私の博士号を持った友人たちの中には、未だに実力のない人々のために働き続けている人もいます。私はこの世界が上から下まで偽りで満ちていることを理解するようになりました。宇宙のデマから核兵器の詐欺、パンデミックの詐欺、さらには偽の戦争まで、世界の権力は少数の悪意ある欺瞞の達人たちによってコントロールされていることが示されています。そうであれば、普通の企業の仕事がどうして違うと言えるでしょうか？

大学時代、どれだけ多くの学生が「やり過ごしていた」かを覚えています。コーディングができない、またはひどいコードを書く学生は、常に優秀なプログラマーがいる強いチームに加わる方法を見つけていました。彼らは演技をし、積極的であるふりをして、研究、レポート作成、ド

キュメント作成などの表面的なタスクを行い、実際のコーディングを避けていました。彼らがコードを書くとき、その質の低さが彼らを露呈させました：数百行に及ぶ混沌とした while ループ、ひどく書かれた関数、またはたまたまうまいといった脆弱なハックなどです。

優秀なチームメンバーは、こうした人々の本性を見抜くことができました。しかし、大学は「調和」の場であり、能力のある人々は「礼儀」や「友好」の感覚から、彼らを糾弾することはありませんでした。教授たちもそのような問題には関心がなく、グループ全体が成果を上げるかどうかだけを気にしていました。その結果、強いチームに寄生することで、彼らは「優秀な」成績で卒業することができたのです。

このような人々が職場に入ると、彼らは同じ戦術を使います。彼らは他人のスキルを利用し、既存の作業に数行自分で追加して、自分の名前がコードベースに表示されるようにします。彼らはドキュメント作成や調査タスクには熱心に貢献しますが、実際のコーディングは避けます。再び、有能な同僚たちは礼儀正しさから彼らを暴露しません。時が経つにつれて、これらの人々はより高い地位に昇り、最終的には上級リーダーシップのポジションに到達します。

世の中は偽物でできているから、そういう人たちは必ず出世する。偽物の上司は、自分と同じような人間を昇進させ、本物のスキルを持つ人たちを働かせることができればそれでいい。これが、どんなに立派なスローガンを掲げ、「エンジニア主導」や「エンジニアリング文化」を謳っていても、ほとんどの企業の実態だ。

「人生は四十から始まる」とか、四十にして惑わずと言いますが、実際にそうなる人はどれだけいるのでしょうか？私はそうではありませんでした。多くの人々は、一生を壮大な幻想の中で生きています。

42歳にして、私は悟りを開いた。上海の42階建てのマンションの42階に住んでいた42歳の時、私はこの世界の秘密を解き明かしたのだ。その年の初め、私はふと、「42は生命、宇宙、そして万物についての究極の答え」だから、もしかしたら今年は私にとって飛躍の年になるかもしれないと思った。そして、その通りになった。私は音楽理論を深く理解し、チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、バロックフルートを練習した。しかし、私の最大の飛躍は特定のスキルではなく、世界の欺瞞を見抜くことだった。

この探求は私を物理学へと導き、アインシュタインの相対性理論の研究を始めるきっかけとなりました。最初はその理論を理解しようと努めましたが、やがてそれが間違っているかもしれないと気づきました。Herbert Dingle の著書『Science at the Crossroads』は相対性理論の欠陥を指摘していましたが、真の誤りを特定することはできませんでした。一年後、アインシュタインの論文を徹底的に読み込んだ後、彼の「特殊相対性理論」が根本的にどこで間違っているのかを理解しました。「光速度不变」の前提が誤りであり、実験的に証明されていないことが分かったのです。マイケルソン・モーリーの実験の結論も誤りでした。

そこから、さらに多くの虚偽を発見しました。エイズ詐欺、パンデミックのデマ、宇宙のデマ、

そして核兵器のデマまで。アインシュタインの  $E=mc^2$  は、「少量の質量が莫大なエネルギーを放出できる」という欺瞞の基礎を築きました。

しかし、当時はそれが種となり、この世界のすべてを疑い始めるきっかけとなりました。その中には、「すべてを疑え」と人々に語った人物、ルネ・デカルト自身も含まれていました。私はデカルトも詐欺師であることを発見しました。彼の『省察』の中で、彼はすべてを疑い、心を空にして、知識を一から再構築すべきだと主張しました。しかし、「心の内容をすべて空にした」後、彼は「今、私が真実だと知っているのはただ一つ、神の存在だけだ」と宣言しました。彼が明らかに指していたのは『聖書』の中の神であり、それが彼が偽者であることを私に気づかせました。彼の『省察』全体が無意味なものであると悟りました。

疫情期间被关着，突然想到，或许应该花点时间了解一下疫情到底是怎么回事——或许有什么不对的地方。我问了一个喜欢研究政治的朋友。这个朋友经常跟我讲美国有多邪恶，所以我想他或许研究过。果然，他研究过疫情，告诉我说疫情很可能是比尔·盖茨和福奇这样的魔鬼搞出来的。

しかし、彼はパンデミックの何が偽りなのかを正確に突き止めていませんでした。彼は、高度な技術を持つ悪者がコロナウイルスを作り出したと考えていましたが、「ウイルス」自体が存在しない可能性については考えていませんでした。その後、彼は熱心に3回のワクチン接種を受けに行きました——もちろん、すべて国産のワクチンです。なぜなら、彼はアメリカを軽蔑し、国産品を支持していたからです。幸いなことに、彼はまだ生きています☒。

さらに調査を進めると、Virus Mania という本に出会いました。この本は、世界中のすべての「ウイルス」は偽物であり、ウイルス学全体が疑似科学であると主張しています。科学的にウイルスの存在が証明されたことはないと述べています。その後、「ウイルスは存在しない」という考えが、ドイツの生物学者 Stefan Lanka から始まったことを知りました。Lanka の主張を完全には信じていませんが、コロナウイルスの存在を証明するとされる2つの公式に発表されたウイルス学の論文を調べました。案の定、Lanka が指摘した通り、どちらの論文も適切な科学的対照実験を行っておらず、この重要な問題について曖昧なままでした。

このスレッドを追っていく中で、AIDS もまた詐欺であることを発見しました。Kary Mullis と Peter Duesberg の著作に出会いました。この二人は陰謀論者ではなく、信頼できる科学者です。Peter Duesberg は、Inventing the AIDS Virus という本を書き、「AIDS の流行」というでっち上げとウイルス学の欺瞞的な性質を暴露しました。彼は、しばしば「ウイルスの存在を証明する」ために循環論法が使われると指摘しています。多くの人はその関連性に気づいていませんが、私は「AIDS 詐欺」と「COVID 詐欺」の脚本が同じで、同じ役者たちによって演じられていることに気づきました。

私は Stefan Lanka が正しいと信じています：ウイルスは存在しません。しかし、彼は「症状」の源を明らかにしませんでした。「ウイルスは存在しない」と主張するすべての人々も、「COVID の症状」がどこから来るのかを説明できていません。「ウイルスは存在しない」理論の支持者の中

には、後に「COVID の症状は 5G の電磁波によって引き起こされる」と主張し始めた人もいます。これにより、これらの人々も俳優であることが確認されました—マトリックスが大衆を混乱させるために仕込んだ「敵対キャラクター」です。中国での最後の経験と、イギリスでのさまざまな奇妙な出来事を通じて、私は「症状」がおそらくさまざまな秘密の毒物散布作戦（スモッグ、飛行機のケムトレイル、公共の場所での「化学的な空気清浄剤」など）から来ていると結論づけました。

次に明らかになったのは、「宇宙のデマ」「核兵器のデマ」などでした。AINシュタインの  $E=mc^2$  は、おそらく「核兵器のデマ」を支えるために作られたもので、「ほんの少しの物質が莫大なエネルギーに変換できる」と人々に信じ込ませるためだったのでしょう。そして、パンデミックが終わると、3年間の中止を経て「AI のデマ」が ChatGPT によって再び猛威を振るい、かつて騒がれた「自動運転」は静かに消え去りました…

この世界にはあまりにも多くの欺瞞と幻覚が存在するため、私たちが問うべき質問は、おそらく「何が現実なのか？」ということかもしれません。

42 岁，我终于大彻大悟。明白了「生命、宇宙以及任何事情的终极答案」确实是—42。但是，不先看破一切假象，又如何能理解这个答案呢？所以，答案只能是 42—毫无意义。

人生が無意味だと言っているのではなく、これらの幻想を見抜くまでは、このような深遠な問いに答えようとする試み自体が無意味だと言っているのです。